レッスン：SPA 64

テーマ：二元性/思考/フォーム＆シェイプ

私の姉妹・兄弟達、スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

以前のレッスンでは現在のパーソナリティーにとってなぜ二元性が必要なのかをお話しました。勿論、二元性が表現されるためには、それは生の素質的可能性のなかにおいてです…まずイデア、法則、原因として。しかし今、実存の諸世界のなかで二元性があります…現在のパーソナリティーが思考を現すことができるようにです。以前のレッスンで述べたように、生(Life)は思考を現すことはありませんが、生は黙想、ブレーシス（＊神の意志）、同化を行います。

ですから、人間が思考を現し、いわゆる対立する二元の意味を生み出すためには二元性が必要となります。意味です。実際、二元性なくして２つの対立するものの意味を現すことは不可能です。ですから、善という意味、そしてその反対の悪という意味、暑と寒という意味などがあります。

思考、考えについてはどうでしょうか。思考とは同時に問いと答えです。しかし、それは比較を通じて表現されます。私たちは何であれ自分がフォーカスするものを何か他の物と比較します。

ですから、人間が無知のなかにいる限り、つまり生それ自体の特質を現さない限り、二元性が必要です。過去に、現在のパーソナリティーは無知のなかにいる限り、それは生の影にすぎないと述べました。それはつまり地面の上ではなくて地のなかにいるのです。

勿論、探究者の努力は現在のパーソナリティーの２番目の素質的可能性のサイクルを終わらせることに向けられるべきです。その結果、地のなかではなくて地面の上に立ち、大きな四面ピラミッドのなかに立つことができるようにです。

二元性と対立する二元について述べました。人間が自分を現すために二元性を使用し始めるや否や、調和はバランスへと変わります；そしてバランスが存在するためには、それもまた神の黙想の結果です。そしてこの二元性の法則を支えているのが原因・結果の法則です。ある哲学ではそれをカルマとも呼んでいます。そしてその法則を支えているのがアークエンジェルのオーダーである、ルシファーのオーダーです。残念ながら、人間は何であれ人間が経験するもの、特に苦しみに対してこのオーダーを非難します。実際にはこのオーダーは人間のイデアを助けているのです。人間の現在のパーソナリティーが進化成長するために必要なそれらの経験を経ることできるように、そのオーダーが助けているのです。私たちは決して神が提供するものを非難すべきではありません。私たちは自分自身の無知を非難すべきです。非難されるべきなのは私たちです。私達が悪魔、悪魔的エレメンタルを創造しているのであり、原因・結果の法則を支えているアークエンジェルのオーダーが創造しているのではありません。

地のエレメントを支配しているルシファーのエレメンタルを決して非難すべきではありません。それらのエレメンタルは私達の肉体が築かれるようにエレメントを提供しているのであり、その結果として私たちは自らを現在のパーソナリティーとして現しているのです。彼らは私たちを助けているのです。私たちがそのエレメントを正しく、または間違って使用しようとも、彼らを非難すべきではありません。非難すべきなのは私たちです。多くの哲学が人間は神を恐れるべきだと教えていますが、私たちは神を恐れるべきではありません。神はアガピである、絶対愛なのです。

私達は自らの無知を恐れるべきであり、現在のパーソナリティーとしての自分自身を恐れるべきです。私たちは制限された現れのなかにいます。そして真理の探究者として私たちは現在のパーソナリティーについて、諸体についてワークすべきです。それらの諸体の形が決める、**あるいはそれらの形が私たちのサイコノエティカルなステートを現しているのです。言い換えれば、諸体の形が現れとしてのサイコノエティカルなレベルを示しているのです。**

それゆえ、私たちは真の本質つまり生(Life)をより多く現すことができるように、現在のパーソナリティーの諸体のワークをすべきです。生それ自体以外のものを決して現そうとすべきではありません。そして生それ自体からのものではない、と言う時、それは生の影からのものです。人間が無知にいる間に創造するものは全て生それ自体から来るものではありません。ですから私たちは注意すべきです。

Page2

Q(質問)：あなたが実存の諸世界からイデア、法則、原因について話すとき、あなたはそれらの世界の意味の概念を得ます。しかし、それらのイデア、法則、原因などは存在の世界に属するものです。それらはどのようにして関係するのでしょうか？なぜなら、存在の諸世界においては具体的な形、アイディア、思考などは存在しないからです。

K(Kikis)：そうです、それは元型であり、イデアであり、それはヒポスタシス（＊下次元における状態）を取るものではありません；実存の諸世界でそれらの法則がある時、生がある時、生が存在して表現されるために何も必要ありません。

さて、そこに何もなければ、何も生じません。イデアというステートで、そして法則、原因というステートでそれらの諸法則がなければ、それらの結果がなければ、この実存の諸世界においてもいかなる法則もありえません。

Q：しかし私の質問は、私が法則、イデア、原因と言う時、そこには実存の諸世界における意味があります。それらの言葉は理解していますが、概念が理解できません…それらが存在しないということ、不定形の諸世界にあり、それゆえにイデアなどというものも存在しないのではないでしょうか？

Ｋ：違います。イデアは存在のステートにあります。イデアとは何か手で触れることのできるようなものではありません。それはそこにあるのです。**イデアをエレメンタルを創造する思考のようなものであると誤解しないでください。思考はエレメンタルを生み出します。しかし、イデアは存在のステートにあります。それは法則であり、イデアです。元型です。意味をもった何かであると考えないでください。**そのようなものではありません。イデアがあり、そのイデアの結果として人間のフォームがあるのです。そして後になって現れの下位の段階で人間の形が生じます。もしイデアによるフォームがなければ、私たちが知っているような形はないでしょう。さらに創造の元型のイデアもあり、それはひとつであり、人間のイデアとしてのフォームと同じです。

Ｑ：それではフォームとシェイプ（＊形）とはどう違うのですか？

Ｋ：シェイプ(shape)とは実際に存在するものであり、形があるということは触れることができるということです。しかしフォームは触れることのできないものです。フォームはイデアです。シェイプは意味を持ってアプローチできるものです。シェイプの場合、あなたはそれがどのようなものであって、どのように存在しているかを理解することができます。なぜなら、それを他のものと比較できるからです。しかし、フォームという場合、それは実際あらゆる意味を超えたものであり、それを何かと比べるということはありません。生それ自体の世界において、それにどのようにアプローチするかは別問題です。もしあなたが今人間が立っている所からそのリアリティーにアプローチしようとすると、大きな違いがあります。なぜなら、人間が今いる意味の世界からイデアにアプローチしようとすることになるからです。どのようにアプローチし、どのように解釈するか…それ自体について述べる言葉それ自体が解釈だからです。解釈を通じてイデア、法則、原因にアプローチするのではありません。なぜなら、それら全ては生それ自体、さらには生としてのモナド・セルフの中にあるからです。

Ｑ：以前、ロゴス的現れと聖霊的現れがあると述べ、また数週間前にはアークエンジェル的あるいはエンジェル的なフォームとしての私たちの現れがあるだろう、と述べました。天使的存在としての私たちについてもう少し話していただけるでしょうか？

Ｋ：創造界において生は二つの主なイデア、つまり人間のイデアおよび聖霊的イデアを通じて表現されています。しかしスピリット・セルフ（霊としての自己）としてそこには違いがあるでしょうか？全てのスピリットは同じであり、全ては同じ海からの一滴であり、全く同じです。あるスピリットは人間のイデアを通じてそれ自身から微細なスパークを放って自らを表現し、別のスピリットは聖霊的イデアを通じてそれ自身から微細なスパークを放って表現します。そしてそれら全ての現れは、それが人間のイデアとしてであろうとアークエンジェルのイデアとしてであろうと、それらは生それ自体の現れなのです。

Page3

さて覚えているかもしれませんが、人間のイデアにはセルフ・エピグノシスとしての質があり、私たちには魂のセルフ・エピグノシスがある、と話しました。セルフ・エピグノシスとは人間のイデアに自己実現の能力を与える質です。聖霊的現れ、私たちの兄弟であるアークエンジェルにもまたセルフ・エピグノシスがプログラムされていますが、それは私たちがオーダーと呼ぶ特定の各グループが創造界において、神の黙想の動きのなかで特定の仕事をするためです。

さてあなたの質問に戻りますが、人間のイデアを通じた現れもまたアークエンジェルである、と述べたのでしょうか？そうです、私たちは全てアークエンジェルなのです。魂のセルフ・エピグノシスとして、人間はアークエンジェルであり、他の全てのアークエンジェルのオーダーと完全に等しいのです。しかし、特定のオーダーのアークエンジェルと同等という意味ではありません。なぜなら、人間には自由なブレーシス（＊意志）が与えられているからです。皆さんが理解しやすいようにそのように呼びましたが、実際には自由意志ではありません。セルフ・エピグノシスは人間としての生に、それが生を完全に表現している間はいかなる制限、境界をも与えていません。ですから、魂のセルフ・エピグノシスとしての人間は同時にアークエンジェルなのです。

以前のレッスンで、現在のパーソナリティーとして存在し、無知にある間はアイコンであり、生の影、アイコンであると述べました。また覚えているかもしれませんが、私たちはそのアイコンを打ち壊し、似姿を現す必要があると述べました。何の似姿でしょうか？生それ自体の似姿になるのです。そしてその中で、と言うとき、それは勿論天上人（\*Heavenly Man）を意味し、それは実際に創造界の元型のフォームを提供し、創造界のなかで表現される生のフォームを提供しています。人間のイデアのみならず、アークエンジェルさえも、天上人と全く同じフォームがそこにはあります。覚えているかもしれませんが、惑星上の全人類が現在のパーソナリティーの自己実現に到達すると、全人類は全く同じ特質を持つようになり、その惑星上の全ての人間は全く同じように見え、創造界における生の現れである他の全ての現れと同じように見えるようになります。そうです、私たちは兄弟であるアークエンジェルと全く同じように見えるようになるでしょう…ただ一つの違いを除いては。色、輝きは異なります。彼らの輝きと人間の輝き、色は同じではありません。なぜなら自己実現した現在のパーソナリティーとして、人間は他の全てのアークエンジェルのオーダーの仕事ができるようになるからです。ですから、自己実現した全人類は全員同じように見えるでしょう。肉体としての身体も全く同じになり、何の違いもなくなり、病気も性別もなく、全ての分子、細胞は全く同じになります。

Ｑ：そのような意識のステートになると性別がないのなら、なぜ全体で一つの身体にならないのでしょうか？そのようなステートにおいては、個別の身体を持つ意味がないのではないでしょうか。なぜなら、その色、輝き以外は誰もが同じだとしたら。その色は一つのフォームにあるのでしょうか？

Ｋ：そうです。しかし、私たちが個別性を失うことはありません。私たちは個人として存在し続けます。

Ｑ：でも肉体はないのですよね？

Ｋ：しかし、それでも体があるのです。それは実際スーパーサブスタンスのバイブレーションですが。しかし、あなたはそのバイブレーションに留まるわけではありません。時にはそのバイブレーションを下げて、必要であれば実存の、物質のバイブレーションにまで下げることもあります。人間がどのような助けを与えるかを「決める」のは誰でしょうか？人間が決めるのではなく、聖なる慈悲(Divine Merciness)が、自己実現した惑星としての自己実現した現在のパーソナリティーである人間を引き寄せ、何処に助けを与えるかを決めるのです。

さて、それでは私の方からあなた方に質問したいのですが、もし私たちが完全に似た諸体を築くとしたら、それもまたある程度現れのレベル、現れの質を特定するのでしょうか？覚えているかもしれませんが、以前、肉体は私たちの現れ、表現の結果の影響を受ける、私たちの身体のステート（状態）もまた私たちの現れによる、と述べました。レッスンのなかで何回もそう述べてきました。それでは反対側から見てみましょう。もし二つの全く同じ身体を築くとします。全く違いのない身体です。健康状態もまったく同じで、病気もありません；そのようなステート（状態）もまた現れのレベル、現れのステート、現れの質なのでしょうか、どう思いますか？

Page4

そうです、それこそが今、科学がそうとは知らずにクローニング、クローン化において行っていることです。しかし、ひとつ違いがあります。なぜなら、ドイツの実験室ではある程度成功しました。一千回のうち一回ぐらいの割合で成功しています。それが現在における割合です。

彼らがやろうとしていることは同一体を作ることです。つまり現れが全く同じである同一体です。また彼らはDNAを変え、その現れに干渉しようとしています。その現れに？つまり出来る限り良い健康をもたらすためです。なぜなら、前に述べたように、肉体が健康であればその現れもより良いものとなります。しかし勿論、科学がやろうとしていることは有益なものではありません。しかしいずれにしても彼らは自分たちに利益をもたらそうとしてそれらの現れを使用しようとしています。

さて、彼らは細胞を四分割することによって同一体を作ろうとしています。四つが分割の最大限であり、各細胞から四つの同一体を作ろうとします。全く同じ同一体です；しかし現れは同一ではありません。

現れ、表現に関しては誰が決めるのでしょうか？生(Life)は創造されたものではありません。肉体は創造物ですが、それは人間が創造するものではなく、聖霊による創造物です。さて、同一体を通じて現される現れは、それらの肉体が示すレベルなのでしょうか？答えはノーです。それに関して原因・結果の法則がどのように反応するのかは誰も知りません。私が確かに言えることは、一方では法則が働き、人間はそのような実験の結果、自然に反した行動の結果を大いに被ることになるということです。それらの同一体を通じて現れが表現されるとしたら、それらは非常に低いバイブレーションの現れとなるということです。それだけは確かです。もし彼らがその方向に向けて聖霊がやるべき仕事を始めようとするなら、私たちは原因・結果の法則の結果によって苦しむことになります。

Ｑ：原因・結果の法則、および他の様々な法則に関してですが、もし法則に反することをしてそれを冒すとバランスが崩れます。それはバイブレーションに関係します。もし法則がバランスを現し、それが崩されるとそれは再びバランスを取り戻す必要があります。質問は、それを変えるのは法則なのでしょうか、それとも人々のバイブレーションのレベルなのでしょうか？私たちは法則を犯すと常に言いますが、法則が犯されるようなことはないと私は思うのです。

Ｋ：結果を被るためには、あなたはそれらのバイブレーションのなかにいる必要があります。特に物質界のなかで結果を被るためには、例えばマインドの低次のバイブレーションの法則を犯す必要があります。実存の諸世界より高いレベルでは法則を破ることはできません。あなた方はイデア、元型といった法則に手を伸ばすことはできません。私達には低次の法側がありますが、そこにはバランスがあります。法則はいろいろなバランスを保つとあなたは言いましたが、そのとおりです。今私たちは実存の世界にいますが、そこには目には見えませんがそれらの法則が働いています。１＋１は２ですが、それは実存の世界内の法則によるものです。なぜなら、何かが１つであると見なすためには、何かが存在する必要があります。さもないとこれは１つ、２つ、または３つであるなどと言うことができません。何であれ実存しているものを理解します。実存していないものにアプローチすることは不可能です。これらのバイブレーション（＊物質界のバイブレーションのこと）にいる間、制限ある現れにいる間は、人間はそれ（＊実存界以外のもの）を認識することができません。

私たちが法則を破れば、その結果を被ることになります。物質においてさえも結果を被ります。なぜなら、人間として、現在のパーソナリティーとして私たちがいかなる法則にアプローチしようとも、それらの法則はそれらのバイブレーションに関係するからです。例えば、原子に干渉するとしましょう；原子に干渉することによって原子が爆発します。この原子の爆発はもし適切に利用すれば何らかの効果がありますが、残念なことに人間はそれを破壊的武器として利用しています。人間は他のパワーの手段を見いだすために自分自身に関するワークをする必要があります。もし法則を犯せばその結果を被ることになります；私たちはそれらの法則にアンバランスをもたらすからです。法則はそこにあり、法則はどんな結果によっても苦しむことはなく、人間がその結果に苦しむのです。法則は特定の手段を通じて働き、人間はその手段を通じて表現され、また人間は自らのためにその手段を利用します。実存する全てのものは何らかの法則のバランスのもとにあります。さてバランスの背後には諸法則の調和があります。もしいわゆるバランスを去るとすると、そこにあるのは調和です。私たちが何かにフォーカスすると、自動的に私たちの無知が調和をバランスへと戻します。何であれ主の創造したものには調和がありますが、私たちがそれにアプローチするやいなや、私たちは調和をバランスに変えてしまうのです。もし私たちが周囲の自然界を見ると、自然のなかには調和がありますが、人間が自然に干渉するや否や私たちは調和をバランスに変えてしまうのです。

Page5

Ｑ：私はいつも調和とバランスは同じことだと思っていました。

Ｋ：とんでもありません。調和は生それ自体のなかにありますが、私たちの無知が調和をバランスに変えたのです。その意味は…私が言うことに注意を向けてください…その意味は私たちは現在二元性、対立する二元という意味の世界にいるからです。二元性のゆえに私たちは調和をバランスに変えてしまいました；私たちは自分たちが存在することすら二元性に基づいて理解しているのです。もし二元性が失われてしまったら、人間という現象は植物のようになってしまうでしょう。思考は一切なく、単に肉体として存在し、肉体はサイコノエティカル体との非常に僅かなつながりによって生かされています。しかし、そのような人間は自分というものを表現することはなく、考えることもなく、ただ肉体があるだけです。肉体は生きていますがパーソナリティーはこの世界では生きていません。なぜなら二元性が停止してしまったからです。パーソナリティーはほとんど実存の他の世界、つまりサイコノエティカル界で表現されています。ですから、バランスとは制限ある現れの結果であり、私たちはこのバランスの法則の下にあります。私たちが制限を作り出すや否や、私たちは調和をバランスへと変えたのです。まさにその瞬間に原因・結果の法則は私達のために存在するのです。実際、私たちの無知が原因・結果の法則を求めたのです。

Ｑ：ということは、バランスのなかで生きる人間は常に苦しまねばならないということでしょうか？

Ｋ：もしあなたが経験を苦しみと呼ぶならば。喜びですらバランスをもたらす意味です。そうです、苦しみが大きいか小さいかというような意味を経験します。自己実現に到達するまでは、常に対立する二元の意味を経験します。自己実現に到達するとパーソナリティーはもはや二元性を通じて自己を現すことをしません。エレメンタル、想念体を創造することはありません。代わりに黙想、ブレーシスの投射というエレメンタルを創造します。天使のようにです。私たちをそれをもエレメンタルと呼びますが、それは思考の結果としてのエレメンタルではなく、黙想、ブレーシスの結果としてのエレメンタルです。それらは永遠のエレメンタルであり、エネルギーを失うことはなく、思考の結果であるエレメンタルのように生き続けるためにはフォーカスを必要とすることはありません。それらは永遠のエレメンタルです。なぜなら、生それ自体の結果として、その背後には聖なる目的があるからです。

Ｑ：自己実現に到達すると調和のステートに入るのですか？

Ｋ：そうです、私たちがフォーム、あるいはシェイプ（＊形）の制限のない体を使う時です。フォームはありますが、しかしそこにはシェイプによる境界、制限がありません。それがフォームとシェイプの違いです。そしてその体はいわゆる高次ノエティカル体と呼ばれるものです。人間が高次ノエティカル体のそのステートに到達すると、そのスーパーサブスタンスを見ると、それは高次ノエティカルから始まり、スーパーサブスタンスはイデア、元型、法則、原因の諸世界のためのものであり、それらは不定形の世界であり、いかなる境界もありません。

覚えているかもしれませんが、現在のパーソナリティーとしてそのステートにいる人間はコミュニケーションの手段として五つの超感覚を使用することはなく、同調（アチューンメント）を使います。自己実現した惑星上の全人類が存在の諸世界に入る時、その時は全く別です。その時人間は魂のセルフ・エピグノシスとして自らを現し、表現、同化の手段としてフォームを使いますが、同調を使用することはありません。しかし、最初の磔、そしてそれより下のレベルでは同調がコミュニケーションのための最も高い手段となります。

Page6

Ｑ：私がフォームとシェイプの違いを理解しているかどうかを確かめたいのです。例えば、太陽のシェイプは丸いといいます。でも私たちの愛の太陽と言うとき、それは境界のないフォームです。つまり、私たちの愛の太陽というアイディアには特定のシェイプ（形）がありません。シェイプとフォームの違いがよく理解できないのですが。

Ｋ：シェイプを帯びるためにはその背後にフォームのマトリクス（＊母体、基盤）が必要です。もし背後にフォームがないと、何であれシェイプを帯びることはできません。

Ｑ：はい、それは私が今言ったようなことですね。あなたが毎日見るシェイプを帯びた太陽、それには特定のシェイプがあります。もし誰かが太陽はどのようなシェイプをしているかと尋ねたら、私はそれは丸いと答えるでしょう。さて、誰かが私たちの愛としての太陽、あるいは何か抽象的なものに関する愛について話すとき、あなたはそれをフォームとして理解するのですか？

Ｋ：より良く理解できるように、別の仕方で説明しましょう。私たちが何かを創造しようとする時には、考え、まずそれがどのようであるかを想像します。それは一つのイデアです。特定のシェイプを得るために、特定のシェイプの存在物を得るために、私たちはそれについてのイデアとしてのフォームを創造します。このイデアなしでは何をも創造することはできません。それゆえに、この世界にあるものは全てには目に見えない体があるのです。全ての物の背後にはサイコノエティカル体があります。作る人によって与えられた体。誰かがそれを作るために、築くために四つのエレメントを利用します。そこにはイデア、考えとしての体があります。私たちはそれを考えと呼び、ある人はイデアとさえ呼びます。しかし、イデアは実際にはこの世界のバイブレーションのためのものではありません。それは高次のレベル、それは私たちの内側の生のスパークから来ます。イデアを創造するのは生のスパークです。思考がフォームを与え、フォームは特定のシェイプを帯びることによって実在するようになります。シェイプはフォームの結果です。

さて、あなたが太陽、天体としての太陽と言うとき、その太陽の背後にはイデアがあります。誰がそのイデアを創造したのでしょうか？イデアとしてのフォームは主、絶対存在、神のブレーシス（意志）の結果です。

Ｑ：クローニングにおいては精子または細胞を分割するのですか？

Ｋ：クローニングにおいては精子ではなく細胞を使います。細胞を分割します。それがクローニングです。そしてその細胞の４分の１を女性のなかに、卵子の側に、あるいは卵子のなかに置きます。その結果、受胎が生じ、聖霊の働きによって身体が築かれます…人間の願望に従って。

Ｑ：しかし、もし法則がそれを許さない場合には、それは生じないわけですね。

Ｋ：しかし、法則はある程度はそれを許します。それによって人間が経験を経ることができるようにです。許さないわけはありません。生とは築かれるものではなく、現される、表現されるものです；しかし、そのような種類の生が表現され、それが人間の無知によってどのように操作されるのでしょうか？

Ｑ：もし永遠のアトムが関与するとするなら、それは既にそのレベルの現れがあることになり、いつの日かそれは進化するためにこの世界のバイブレーションにおいて表現されるわけですね。

Ｋ：そうです。それらは聖なる慈悲の監督下において表現されることになります。罰する神というものは存在しません。しかし、もしあなたがそのような低いバイブレーションを有する現れをもたらし、それにパワーを与えるならば…。なぜなら、多くのパワーを持つ体を創造することができるからです。もし身体のDNAを変えれば、大きな強さをもつ身体を作ることができます。想像できますか？気づきのレベルが非常に低い者にそのような力を与えるなら、作られたそれらの人間は、それらを実験として使用とした人間たちに刃向かうようになります。科学者達は怪物、モンスターを創造しようとしているのです。それらの科学者たちがそのプロセスを加速しないことを望みましょう。

EREVNA SPA64/KE9/12MY12